

第33回保存フォーラム
洋古書の保存と取扱い—革装本を中心に—

アンケートで寄せられた質問への回答

視聴後のアンケートでフォーラムの報告内容に関するご質問を多数お寄せいただき、ありがとうございました。

質問者から指定のあった報告者の方々に回答をお願いし、以下にまとめました。なお、同種の質問はまとめ、質問文を適宜編集しています。質問欄外の注記(*)は、収集書誌部資料保存課で付したものです。

下記以外のご質問やご意見・ご要望は、今後の保存フォーラム企画の参考にさせていただきます。

<修復の依頼、資料の状態確認、処置方法の検討>

問1 洋書、和書、原資料の保存修復を一人で担当しています。館の方針がない中で、修復方法や程度を、修復業者の意見のほか何を参考にして決めたらよいでしょうか。関連して、修復を受ける(依頼する)ときや利活用の場面で、図書館側でも洋古書に対する専門的知識が不可欠だと感じる点がありましたら教えてください。

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター
松丸美都氏】

その書物の価値、使用目的や頻度といった文脈を考慮することが修復方針を決めるうえで大切な指針になると思います。予算や時間的な制約、さらには担当する方のスキルも考慮することも重要です。

図書館側の専門知識については、取り扱いや、貸出・閲覧時のサポート、環境整備やコンディションチェックなどコレクションケア全般の知識に加えて、定期的に基礎的な修復方法と修復倫理についての認識をコンサバターと共有・ディスカッションすることが、修復方針を決定する際の円滑なコミュニケーションに役立つと思っています。

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

1980年代中ごろから洋古書の修復を始めましたが、資料保存に関心を寄せる仲間の意見や海外からの情報を頼りに自分で判断していました。1993年から始まった「メンガー文庫マイクロフィルム化・目録改定・保存事業」では、マイクロ化作業、本の所蔵者、保存作業のそれぞれの代表者が協議して処置方法や程度を決めました。この場での経験が私の出発点となりました(問13への回答も参照してください)。

【回答 慶應義塾大学三田メディアセンター課長(選書・スペシャルコレクション担当)
倉持隆氏】

当館では貴重書は原則として修復しないため、適切なお答えができませんが、準貴重書の修復を依頼する場合には、できる限りオリジナルの装丁を残すように修復を依頼するようにしています。

洋古書に関する専門的知識については、閲覧者や授業での利用に際して、資料に負担の

かかる利用方法をしないように監督する際に、特に必要になってくると感じています。

【回答 国立国会図書館収集書誌部資料保存課】

ご参考までに、書籍修復の専門業者についての問い合わせを受けた場合は、JHK（情報保存研究会）のウェブサイトを紹介しています。ウェブサイト内の「JHK 質問箱」から相談することができます。

<http://www.e-jhk.com/html/index.html>

問2 質疑の中で、働いているスタッフが複数の国から来た人で構成され「Diversity」という用語で説明されたことが印象深かったです。そのような人員構成が、例えば古書に対する価値観、修復方法・使用素材の選択等の多様性につながったことがあれば教えてください。

*質疑応答・意見交換部分

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター
松丸美都氏】

Diversityという言葉は、国籍だけでなく、バックグラウンド、思考や好みなど様々な違いを認め合い尊重するという広い意味を含んでいるといえ、修復分野においては、価値観、修復方法・使用素材の選択の多様性にもつながると思っています。例えば私自身は日本での経験があるので、日本で手に入る和紙や道具、技法をスタジオで使用することを提案し修復処置が上手く運んだ事例がありました。また、イタリア人の上司からイタリアで多く見られる製本構造について詳しく学び修復に応用したり、かつて文学を専門にした同僚からは古英語について教えてもらいオブジェクトについての理解を深めることができたという経験もあります。普段から仕事上のディスカッションだけでなく小さな雑談においても「なぜ」という疑問を正直に伝え、お互いの意見から学び合うことで、お互いの信頼関係を築くことができ、仕事での共同作業にいい影響を与えることも実感しています。

問3 革装本の革の種類・紙の種類の見分け方について、具体的にポイントを教えて頂きとても参考になりました。それぞれの種類について、取扱いや保存の注意点に相違はあるか教えてください。また、綴じや製本の種類（特に一部のみ破損していて、完全に背の構成が見えないような場合）についても、見分け方がありましたら教えてください。

*報告2 スライド4～6、11～12、25 関連

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

革や紙の種類について取扱いや保存の注意点について、革にはタンニン革の他に羊皮紙と明礬鞣し革がありますが、深刻な劣化は比較的少ないと思います。羊皮紙は反りや波打ちなどの変化に気を付けます。植物性タンニンを使って鞣すタンニン革で19世紀後半以降に作られた革に深刻な劣化が発生しています。古い革装本を19世紀以降に修復している場合に、オリジナルよりも修復した部分の革の劣化が進んでいる事例が目につきます。

紙についてはボロを原料とした紙とパルプを原料とした紙とがあります。ボロ紙は手漉きと機械漉きがありますが、機械漉きパルプ紙に比較して繊維が長く劣化してからの残存強度も高いと思われます。

製本の背の構造が完全に露出していない場合の綴じや製本の種類についての見分け方で

すが、背バンド付きの製本であれば、バンドの形状やバンドの位置と綴じの位置とが一致しているかどうかで疑似背バンドなのか本物の背バンドなのかを見分けることができます。本物の背バンドであれば、綴じが「背バンド綴じ」で背表紙芯紙を用いることなく本の背に表紙の革を直接貼っています。古い製本では背バンドがなくても背表紙芯材を用いずに表紙の革を背に直接貼っています。バンドの無い製本の場合は、背表紙芯紙の存在と背がホローになっているかどうか注目します。疑似背バンドの場合は表紙芯紙を用いてホローになっていることが多いです。芯紙を用いずに疑似背バンドを背に直接貼り付けている場合もあります。

問4 事前調査でカルテを作成されると思いますが、ケンブリッジ大学独自のものでしょうか、それとも統一された規格がありますか。
一度修理をすると、個々の資料に対して修理レポートが作成され、将来、同資料が修理される際はそのレポートを参照することができる体制になっているのでしょうか。

*報告1 スライド7 関連

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニuskript・コンサバター
松丸美都氏】

カルテはケンブリッジ大学ケンブリッジ・カレッジズ・コンサベーション・コンソーシアムスタジオ独自のものですが、修復コンディションレポートの基準を満たす構成をとっています。レポート・写真はデジタルデータで保存されておりいつでも閲覧できるようになっています。

<処置方法>

問5 レッドロット対策で、慎重にしないと資料に悪影響を及ぼす可能性があるとして、保革油や薬品などは使わずに紙で包んだり箱に入れたりといった直接手を出さない保存方法の例が質疑応答・意見交換の中で示されましたが、保革油で手入れするのはどういった点で難しいのでしょうか。塗布しても問題ない状態か見極めることや革装本の量の問題、塗布する分量などでしょうか。蜜蝋などは使えないのでしょうか。
また、松丸氏がレッドロット対策で挙げていたHPC（クルセルG、セルジェル）について、使い分けはどのようにされていますか。また、それらの処置後には、革が保湿されるような何かを塗られますか。

*質疑応答・意見交換部分（革装本のレッドロット対策）

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニuskript・コンサバター
松丸美都氏】

劣化した革の表面に使用する薬剤について、私たちのスタジオではセルロースエーテル（HPC）のジェルを使用して表面を落ち着かせています。クルセルGとセルジェルはどちらもHPC由来で、目的・適性に合わせて使い分けています。クルセルは粉を購入しており、エタノール、イソプロパノールといった溶剤を用いて様々な濃度に希釈できるため、質感、粘度、浸透性等を調整できます。セルジェルはイソプロパノールであらかじめ希釈されたジェルとして売られている商品で、少しとろりとした質感なのでそれに適したオブジェクトに使用しています。

私たちのスタジオでは、保革油やレザーコンディショナー、レザードレッシング等のコ

ーティングは塗布していません。過去に使用された事例からは、コーティング自体が劣化したり、埃が付着したり、革の劣化を促進させるという事例も多く見受けられ、取り戻せない状態になることがリスクとしてあげられます。

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

保革油での手入れには、スペースが必要です。HPCと保革油の塗布の際は、表紙を広げて立てて乾燥させるので、場所を取ります。場合によっては翌日までかかるので、作業員の確保が必要です。本を立てたままなので安定が悪く、安全性の不安もあります。

比較的状態の良い革に保革油を塗るのは問題ありませんが、状態の悪い革の場合は、保革油によって黒く変色して焦げたような状態になることがあります。柔軟性がなくなります。元に戻すことができません。革の状態を見極めるのが難しく、個人差も発生します。安全に利用するためにはとりあえず保護ジャケットを装着すれば良いので、保革油塗布が優先事項ではありません。まずは保護ジャケットで対応し、余裕ができたなら保革油塗布の順序が良いと思います。蜜蝋は試したことがありません。おそらく使わないと思います。

問6 レッドロットについて、本学においても他の資料に影響が出ないように中性紙保存箱や中性紙封筒に入れて保管していますが、閲覧を考えると何かしらで資料に対しカバーを作製する必要があるかと思えます。その際、革装本に負担なく、また他の資料に色が移らないためのカバーの素材について教えてください。

*質疑応答・意見交換部分（革装本のレッドロット対策）

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

革装本の保護ジャケットの素材について、皮革研究者に質問したことがあります。2004年に東京製本倶楽部主催で都立皮革技術センター見学会が行われました。その際に保護ジャケットの素材として紙と樹脂フィルムのどちらが良いのかの質問がありました。研究者の答えは、「革が劣化する過程でホルムアルデヒドなどの有害ガスを発生する。フィルムでは滞ってしまうが、紙では通過するので、紙が望ましい」ということでした。私はそれを参考にしています。

問7 勤務している図書室で所蔵している革装本の保存作業にHPCのアルコール溶液→保革油→アクリルポリマーのコーティング剤(SC6000)を使用しています。この作業を施した図書の有効保存期間はどのくらいなのでしょう。また、背など革の剥離にフェキ糊のみを使用していますが、フェキ糊+寒冷紗テープを使用した場合、何か影響はあるのでしょうか。また、このような修理にビニダインの使用は有効でしょうか。

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

私も同じ処理の仕方をすることがあります。それぞれHPCは劣化した革表面の固定化、保革油は柔軟性の確保、SC6000にはコーティングの役割があるように思っています。処理を施した書物の有効保存期間は、本や革の状態、使われ方の度合いなどによって変わると思えます。観察して目で見たり、手で触った感じで判断するのが良いと思います。

寒冷紗テープの材質(繊維、紙)は革の固定に適しているとは思えません。フェキ糊などのデンプン糊と和紙を使うことをお勧めします。

問8 革装本の補修に和紙を多用されていたので、今後革装本以外の一般の図書の作業にも使いたいのですが、その場合の和紙の種類を教えてください。革表紙に使ったものと、中のページに使ったものは同じものでしょうか。中が厚地の場合は少し厚手のものを使用しますか。

*報告2 スライド27、32、35、37～38 関連

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

革装本の修理・補強に和紙を使っています。和紙は楮和紙を使っています。手漉きと機械漉きの両方を使いますが、機械漉きを使う場合が多いです。厚さの異なる和紙を使いますが、紙の厚みでいうと、32g/m²、19g/m²、10g/m²のものをよく使います。それぞれ必要な強度によって使い分けています。これ以外の和紙を使う場合もあります。手漉き和紙の場合も同じような基準で選んでいます。必要な強度と、素材とのなじみ具合で使い分けています。

製本の外側の部分に使う場合は、毛羽立ち防止と強度補強を兼ねてアクリルポリマーである絵画用バーニッシュを塗って仕上げています。

問9 テープが貼られていた資料について、エタノールと水の混合で少しずつテープを除去したとのことでしたが、その混合の割合はどの程度だったのでしょうか。資料にもよると思いますが、参考までに教えてください。

*報告1 スライド16

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター 松丸美都氏】

この場合、エタノールと水は1：1の割合で混合して使用しました。

問10 リバインディングで、ゴシック様式製本をされる時、本文の背に糊を入れないとおっしゃっていましたが、背にパーチメントをつけるときの接続方法はどのようにされていますか。本を開いた時に背に沿って曲がっていたので固定されているように見えました。また、革に対してアイシングラスは、他の接着剤と比べて利点がありますか。

*報告1 スライド30

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター 松丸美都氏】

この場合、パーチメントには接着剤を使用していません。パーチメントに開ける穴を背のレイズドコード部分の直径よりも若干小さめにする事で、パーチメントが背に沿って曲がるよう物理的に固定されます。加えて、パーチメントの天地を花布で縫い付けています。私自身は、革にアイシングラスはほとんど使用したことがありません。

問11 カビ菌への対応策について教えてください。

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター
松丸美都氏】

カビを予防するには環境整備が第一です（RH60%以下が望ましいとされています）。

カビが発生してしまった書籍を取り扱う際には、人体に影響を及ぼさないよう PPE（ニトリル手袋、マスクなど）を着用して、対象を他の書籍に影響が及ばない場所に保管します。

「アクティブ」でない乾いたカビの場合は、サクシオンテーブルなど粉塵が広まらない場所でブラシで粉塵を取り除くことができます。70：30（エタノール：水）の混合溶液を表面に塗布するといった応急処置を施すこともあり、その場合は水・エタノールで書物にダメージが及ばないことを確認してから行っています。

*PPE：個人防護具

【回答 慶應義塾大学三田メディアセンター課長（選書・スペシャルコレクション担当）
倉持隆氏】

温湿度管理によりカビが発生しないような環境を維持することに重点を置いており、特別なカビ対策はしていません。問14で後述するような対策によって、日頃から書庫内に塵埃が入らないように心がけています。関連して、年に1回、専門業者に依頼して実施している貴重書庫の特別清掃の際にカビのついた資料が見つかったことがあり、その際は、その業者の方に除去していただきました。

問12 近年の針金綴など（1800年代抜き刷り資料等）に対して何か対策を講じていましたら教えてください。

【回答 慶應義塾大学三田メディアセンター課長（選書・スペシャルコレクション担当）
倉持隆氏】

綴じ部分の変色するなど、劣化しているものについては、可能であれば針金等の金属綴の部分を取り外し、資料本体は中性紙封筒に入れるなどして、劣化がさらに進まないように保存しています。

問13 修復の具体例や様子を動画で見たいです。また、国立国会図書館公式チャンネル「動画で見る資料保存」のように、海外の図書等の修復動画（基本的なことでも良いですし、説明の中であったボードアタッチメントのうち切り込みを入れない手法など発展的な内容でも良いです）がありましたら教えてください。

関連し、洋古書の修復技法についてまとまっている参考図書や、これまでの取り組みをご紹介されている文書、冊子、図書等がありますか。また、修復事例のデータベースがあればとても参考になると思うのですが、そういったものはありますか。

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター
松丸美都氏】

書物の修復技法について網羅的なデータベースや書籍、動画集は思いつきませんが、私自身は、主に英語の参考書や各ジャーナル（ICON, IADA, CCI, AIC, Restaurator, Care an

d Conservation of Manuscripts 等)を読んだり、ウェブサイト (https://www.conservatio-n-wiki.com/wiki/Book_Conservation_Wiki 等)、各機関のブログ、オンラインソース (The Book and Paper Gathering <https://thebookandpapergathering.org/> 等) を一つ一つ参照しています。学会やシンポジウムの参加もおすすめで、今はオンライン上で参加・閲覧できるものも多いです。2023年は「Conservation of Books」がRoutledge社から出版されます。

<<https://www.routledge.com/Conservation-of-Books/Bainbridge/p/book/9780367754907>>
また、同業者に積極的にメールで質問をすることも重要な情報源になっています。

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

洋古書の修復技法についてまとまっている日本語文献はないと思います。または知りません。私の出発点になった「メンガー文庫事業」については、以下の資料で詳述されています。

- ・岩本吉弘「メンガー文庫事業のこと(1)業者選定まで」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』(31), 2011.3, pp.1-24.
- ・岩本吉弘「メンガー文庫事業のこと(2)全体計画の策定へ」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』(32), 2012.3, pp.1-13.
- ・岩本吉弘「カール・メンガー文庫事業のこと(3)原資料の保存をめぐる」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』(34), 2014.3, pp.25-40.

私が日本大学図書館法学部分館で作業している「西洋法制史コレクションの調査と保存」の作業では、当フォーラムで報告した通り、作業前から保存作業後までの作業がデータベース化されており、これからも続きます。ただし公開されていません。

<保管>

問14 貴重書を配架するにふさわしい書架のタイプについて教えて欲しいです(現在スチール製の書架に配架していますが、木製棚に変えようとしたところ、ガスや害虫発生の問題を指摘され、結局何もできずにいます)。やはり木製棚が良いのでしょうか。スチール書架での保管について、現物の利用がほぼなくなって、出し入れに多少手間がかかってもよい場合、保管方法について改善できる点はありますか。関連して、洋古書に適した温湿度管理方法についても教えてください。

*報告3 スライド10 関連

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニユスクリプト・コンサバター
松丸美都氏】

洋古書に適した温湿度は様々なガイドラインがありますが一般的に 16-20°C/RH40-55%程度が適しているといわれており、温湿度の変動がなるべく少ないことが望ましいです。

【回答 慶應義塾大学三田メディアセンター課長(選書・スペシャルコレクション担当)
倉持隆氏】

当館の貴重書庫でも洋古書の保管にはスチール棚を利用しています。調湿や結露を防ぐために、スチール棚の上に中性紙のシートを置く方法があり、そのシートを設置することもあります。一方、和漢の貴重書には湿気を吸い取りやすい木製棚を利用しています。いずれの棚についても、次のような総合的な防虫・防カビ対策を行うことによって、問題な

く運用することができています。

- ・空調により温湿度を一定に保ち、貴重書に適した保存環境を維持する。
- ・年1回、専門業者による書庫の特別清掃を実施する。
- ・書庫への立ち入りをスペシャルコレクション担当のスタッフに限定する。
- ・入庫する際には専用のスリッパを利用する。
- ・書庫入口に粘着マットを置いてブックトラックを入れる場合には車輪についた汚れを除去する。

現物の利用がない資料の保管方法については、資料の形態や重要度、資料状態にもよりますが、まとめて中性紙箱に入れて保管する場合があります。

温湿度管理については、空調機による管理のため、具体的な管理方法はお答えできませんが、施設担当者に洋古書の保存における温湿度管理の重要性を説明し、書庫の温湿度を一定に保つことができる空調機を導入してもらいました。

【回答 国立国会図書館収集書誌部資料保存課】

当館では主にスチール棚を使用しており、貴重書書庫には木製棚を使用しています。木製棚を使用するに当たっては、資料に有害なガスが排出される可能性がないかを確認していることが前提となります。『IFLA 図書館資料の予防的保存対策の原則』第3章第2節及び第4章第3節もご参照ください。

<https://repository.ifla.org/bitstream/123456789/1268/1/ipi1-ja.pdf>

問15 洋古書のうち大型あるいは大部のものについて、本体の重みに耐えきれず歪んでしまうもの、のどから破損してしまうものに対して、効果的な予防法・対処法があれば教えてください。

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

大型あるいは大部の洋古書の取扱いについては、寝かせて保管するのが基本だと思います。どうしても立てて保管せざるを得ない場合には、本の中身がずり下がるのを防ぐサポート付きのブックシューや保存箱を利用するのが良いと思います。作業等で移動する場合は、紙、ボード、マットなどの上に本を置いて、敷物ごと本を移動または回転させる。直接に手で本に触れる機会を少なくする。または本を支えるための台をこしらえる。館内に使える材料と作業スペース、技術とアイデアを持った作業者がいることが重要になると思います。

<利活用>

問16 洋古書を展示公開する際の注意点について教えてください（展示方法・照明の照度・温湿度・公開期間の目安など）。

*報告2 スライド41 関連、報告3 スライド25～26

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター
松丸美都氏】

私たちのスタジオでは、エキシビションのサポート業務として展示前のコンディションレポートを作り、既存のダメージの有無や展示上での注意点（角度など）を詳細に記録したうえで、取り扱い・運搬・展示のアドバイスをしています。展示方法・照度・温湿度・

期間の目安は、書物のコンディション、素材、フォーマット、展示環境によりますが、ガイドラインとして「BS4971:2017 Conservation and care of archive and library collections」などいくつかのスタンダードを参考とし、ライブラリアン・アーキビストの方に適宜アドバイスをしています。

【回答 製本家・書籍修復家 岡本幸治氏】

展示スペースの条件によって可能なこととそうでないことがあります。その場で可能な範囲で、照明や温湿度の管理を行うこととなります。データロガーを設置して温湿度の変化を注目し対処します。表紙やページのそりや変形に注目します。展示方法では安全性に配慮します。展示台を使って本の開閉度を制限するだけでなく、ずれや落下にも注意します。現存の台で不十分な場合は、改良できるように細工します。館内に作業工房と材料、人員が確保されていると安心です。

【回答 慶應義塾大学三田メディアセンター課長（選書・スペシャルコレクション担当）
倉持隆氏】

洋古書を展示する場合は書見台を使用し、120度以上開かないようにしています。照度は50ルクス以下を目安とし、展示ケース内は調湿材を設置して、湿度の調整をしています。展示室内の温度は見学者にも配慮して、一般の閲覧席に準じた設定としています。展示期間は貴重書については1ヶ月以内とし、同じ資料の展示は1年間に1度のみとして、展示終了後は資料を休ませるようにしています。

問17 貴重書を授業に活用されているということでしたが、効果としてその貴重書についての研究が進んだなど、手ごたえを感じるものがあれば教えてください。
また、貴重書活用授業をどのように発展させていくか想定があれば教えてください。

*報告3 スライド19～24

【回答 慶應義塾大学三田メディアセンター課長（選書・スペシャルコレクション担当）
倉持隆氏】

具体的な研究の進展というわけではありませんが、貴重書活用授業を担当される先生が別の版を授業にお持ちになり、こちらで所蔵する貴重書やファクシミリ版と比較して相違点を発見され、初期印刷本に関する印刷工程の通説について、実例を持って確かめることができました、と話されていたことがありました。また、参加する学生さんからの質問で、先生が研究上のヒントを得られたようなお話をされていることもありました。

今後も広報活動を積極的に行い、これまで利用のなかった分野や先生方の利用も増やしていきたいと考えています。

問18 貴重書に触れる機会をさまざまな分野の授業で持っているということでしたが、司書課程や書誌学的な観点から、貴重書やそれに準ずる資料に触れる場を提供する授業があるかどうか、ある場合はどのようなレベルでの授業なのか教えてください。

*報告3 スライド19～24 関連

【回答 慶應義塾大学三田メディアセンター課長（選書・スペシャルコレクション担当）
倉持隆氏】

文学部図書館・情報学専攻の学部生を対象とした「書誌学」や、大学附属研究所斯道文庫設置の大学院生向けの「斯道文庫書誌学講座」などにおいて、貴重書に触れる授業が実施されています。

問19 本は「使用するから壊れる」という話がありました。図書館所蔵のもので取扱いが難しいもの、例えば大型の紙製地図は、利用者の閲覧中だけでなく、職員が書庫から出納するときなどでも、取扱い次第ですぐに破れます。松丸さんの職場では、各カレッジの新規職員に対してなど、資料の取扱者や利用者に資料の取扱い方をレクチャーする機会がありますか。

*報告1 スライド10 関連

【回答 ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター
松丸美都氏】

ケンブリッジ大学ケンブリッジ・カレッジズ・コンサベーション・コンソーシアムでは、研究者、司書・アーキビスト、ボランティア、同業者、学生や一般の方々に対して、書物・資料の取扱い方ワークショップを定期的で開催しています。貴重な資料の場合は利用者の隣で閲覧サポートをすることもあります。

もう一つ大切にしていることは、取り扱い注意（脆弱な素材や大型作品など）の場合、修復レポートと保存容器に、写真と文章を併載した取り扱い方法を明記することです。さらに、修復後の作品返却時にクライアントに取り扱い注意であることをお伝えし、注意を促すことを心掛けています。

<その他>

問20 慶應義塾大学では各キャンパスに研究分野に応じた特色ある図書館（メディアセンター）を設置していると思いますが、資料の長期保存やデジタル化といった普遍的な課題に対してどのように相互に連携協力する体制を構築しているのでしょうか。

*報告3 スライド3 関連

【回答 慶應義塾大学三田メディアセンター課長（選書・スペシャルコレクション担当）
倉持隆氏】

資料の長期保存については、各メディアセンターが共同で利用できる保存書庫も活用しています。全メディアセンターから担当者が集まる会議において緊密に情報共有しながら、限られた書架スペースを有効に利用しています。

デジタル化においては、メディアセンター本部が中心となり、各メディアセンターの担当者と連携をとりながら、「慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション」などの構築・運用を行っています。また、他地区メディアセンターの資料をデジタル撮影する際にも、三田メディアセンターの撮影スタジオを利用できる体制をとっています。